

「お家芸」に期待します

林家竹丸(落語家)

当

機構の地域懇談会の委員になつていただけませんか。電話でそう聞いた時、耳を疑いました。落語家に委員を任せる? どういうことじゃ?

上方落語界は空前の活況に沸いています。関西では戦後初の落語専門演芸場



「めふ乃奇席」(兵庫県宝塚市)にて。型にとらわれず、独自の視点で落語の魅力を伝えている

「天満天神繁昌亭」(大阪市北区)が一昨年9月に開業。さらに上方落語を題材にしたNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」が、今年3月まで半年間、お茶の間に流れました。「地域懇談会に落語家を」となったのも、落語の存在感が高まったおかげでしょう。ここは楽屋代表として、謹んで委員就任をお受けしました。

地域懇談会の委員は、UR西日本支社がプロデュースする再開発事業等の現場を視察し、意見を述べます。今年、二回の懇談会で大阪府北区等計4カ所を訪れました。この機会を得て、私は三つの点ですごく勉強になっています。

一つ目は、明確なコンセプトに基づいたまちづくりを、この目で初めて見たことです。大阪・天王寺区の「桃坂コンフォオガーデン」は、大阪赤十字病院に隣接する区域に診療所、有料老人ホーム、保育所が設けられ、賃貸マンション、分譲

マンションも、幅広い世代の住民が「医住直結」を実現できる空間です。体調が悪くなったら、住居の側の診療所でまず診てもらい、必要に応じて紹介状を持って隣の赤十字病院へ直行。心強いことです。私の母は実家で寝たきりなのですが、こんな街に住んでくれたら安心やなあ。敷地内にはスーパー、飲食店もあり、この地区だけで生活が完結できます(あと寄席小屋と映画館があったらカンベキです)。

駅から徒歩数分という便利な場所、病院を核としたまちづくりができたのは、高い公共性を掲げるURならではのですね。パチンコ店もゲームセンターもない。民間業者が採算だけを考えて開発したのでは、こうはいかないでしょう。

二つ目は、独立行政法人のあり方について考えるようになったこと。事業推進のために国費等も使われている以上、URの行方に無関心ではいられません。随意

契約に、天下り。マスコミの標的になつていますが、一納税者として、報道の見出しだけで誘導されない眼力も必要です。三つ目は、自身のPR下手を自戒したことです。懇談会の席上、ある委員が「URはPRが下手」と指摘し、UR幹部が答えました。「以前はいい仕事をしていれば、それだけで世間はわかってくれると思っていた」。

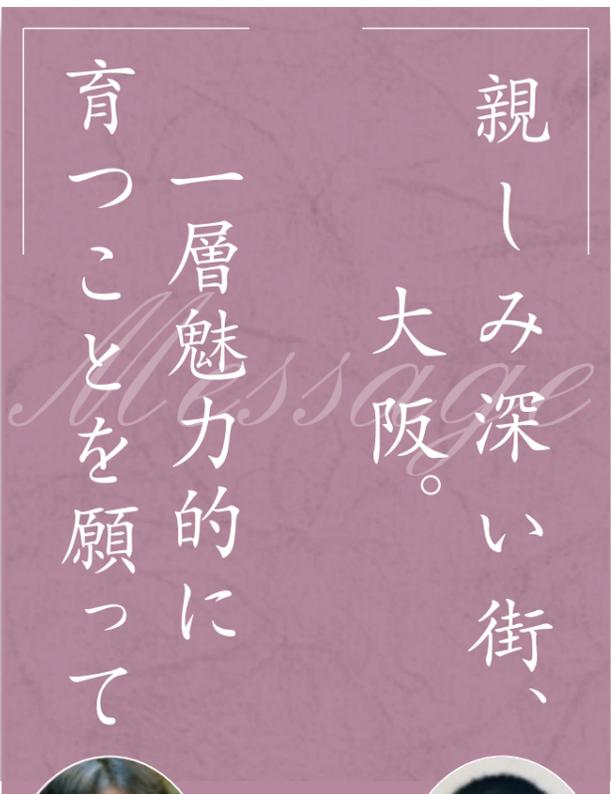
そうなんです。私も「舞台でいい落語さえやっていれば、自然に客がついてくる」と信じていました。でも、時代は変わりました。セールスポイントは自分からどんどん売りこむべきです。商品である芸をおるそかにしては論外です。その点、URは大丈夫。まちづくりのプロデュース、借りやすい賃貸住宅といった「お家芸」がありますから。自信と誇りを持って「お家芸」を売りこんでいきたい。期待しています!

僕

は、大阪人の人懐っこさがとても好きです。以前、大阪市内の路上で、パフォーマンス書道のお仕事をさせていただいたことがあります。大きな書を完成させた後すぐに、年配の女性が「ええ字書くわぁ」と声をかけてくれ、おもむろにおにぎりを買ってくれました。心のあたまる街だなあと、しみじみ思いました。僕は熊本県の出身ですが、その時大阪に親しみを感じ、心が触れ合ったような気がしたので覚えています。

大阪の街で、もうひとつ気に入っていることがあります。それは、飲食街の楽しさ。そのごみごみとした雰囲気も好きです。初めて地下の飲食街に行った時、立ったまま食べる串カツの店(スタンド)に入りました。何とも言えない活気と大胆さがあった、あのおいしさと驚きは、一生忘れることができないでしょう。大阪の飲食店は、どこへ行っても、何を食べても美味しい気がします。今も、大阪へ行く機会があると必ず、ぶらぶらと地下の飲食街を見てまわりますね。

最近、地元の人から「大阪に活気がない」という言葉を耳にすることが多くなりました。大阪独自の文化はすばらしい



たけだ そううん

書道家。熊本県出身。3歳より書道家である母・武田双雲に師事し、書の道を歩む。書道教室「ふたばの森」主宰。著書に、『たのしかくダイヤモンド社』、『書』を書く楽しみ(光文社新書)、『書愉道』(池田書店)、『ひらく言葉』(河出書房新書)がある。公式ホームページは <http://www.souun.net>



はやしや たけまる

落語家。兵庫県宝塚市出身。1995年、四代目林家染丸入門。天満天神繁昌亭等を拠点に活躍するほか、講演、コラム執筆を通じて落語の魅力を発信している。入門までの6年間、NHK記者として徳島、大阪でニュース取材に明け暮れた異色の経歴を持つ。

のに、近代化に伴って、だんだん独自性が減ってきているような気がします。僕は、大阪は、世界に誇るオンリー・ワンの街だと思っています。誇りと自信を持って、もっともっと大阪らしさを爆発さ



「淀屋橋地区第一種市街地再開発事業」の竣工式で、「賑」を書き表現



斬新な個展を始め、様々なアーティストとのコラボレーション、パフォーマンス書道等、独自の創作活動で注目を集める武田双雲さん

せていって欲しいです。大阪の人懐っこさや、大きな声、元気のよさがあれば、この殺伐とした世の中が、少しずつ明るい方向へ向かって行くような気がします。今年3月に、「淀屋橋地区第一種市街地再開発事業」の竣工式に参加させていただきました。ジャズピアニストの小川理子さんとのコラボレーションで、「賑」という字を書かせていただきました。僕の大好きな大阪の街は、活気や賑わいにあふれた街。今の大阪に、再び賑わいが戻ってくるように、いや戻るだけでなく、以前よりもますます活気づいていくように、という願いを込めて、この字を選びました。そして、パワーアップしていく姿を想像しながら、書き上げました。

活気や賑わいがあったからこそ大阪。大阪が以前のよう賑わいを取り戻し、本気を出したら、世界中を元気にしてくれるんじゃないかと期待しています。(談)

ますますの賑わいと活気を

武田双雲(書道家)